

除草剤抵抗性スズメノテッポウの 蔓延ほ場における総合的防除技術

筑後分場

1 背景、目的

近年、九州北部において除草剤が効きにくいスズメノテッポウが増加しています。スズメノテッポウは、蔓延すると麦の減収の原因となるため問題となっています。

そこで、除草剤抵抗性スズメノテッポウが蔓延した水稲後作の麦ほ場において、その発生を低減させるために、浅耕播種と晩播の耕種的防除法と除草剤を組み合わせた総合的防除技術を開発しました。

2 成果の内容、特徴

1) 水稲収穫後、速やかに耕起深5 cm程度で浅耕して、非選択性除草剤を散布した後、再度浅耕しながら麦を播種する「浅耕二工程播種^{せんこう}」を実施することで、慣行播種に比べてスズメノテッポウの発生（残草量）を大幅に低減できます（図1、図2、図3）。

2) 浅耕二工程播種に加えて麦を12月中旬に晩播することでスズメノテッポウの残草をより効果的に低減できます（図2）。

3) 大豆後作の場合など、より詳しい情報については、(独)農業・食品産業技術総合研究機構のホームページ上にマニュアルがあります。

(http://www.naro.affrc.go.jp/karc/contents/files/foxtail_IM.pdf)

3 主要なデータなど

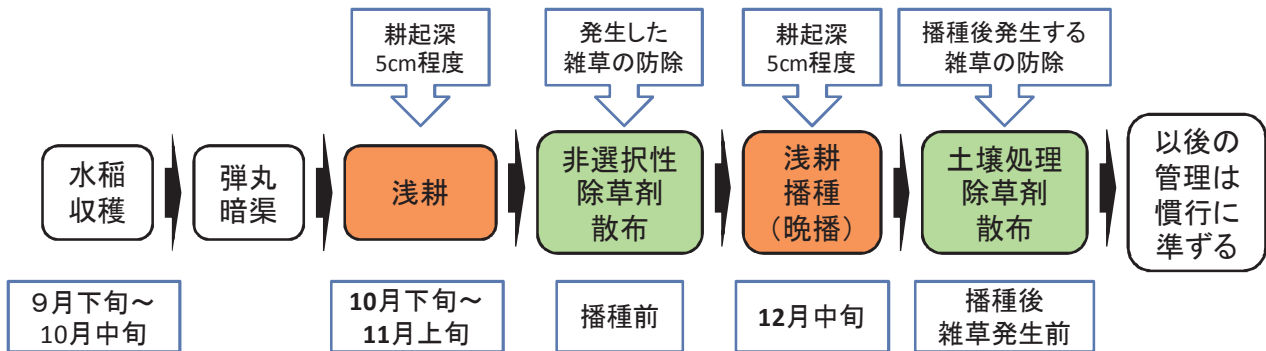


図1 浅耕二工程播種と晩播によるスズメノテッポウ防除作業体系

注) 慣行播種は、播種前に耕起深10cm程度で耕起し、11月下旬に播種した後、土壌処理除草剤を散布する。

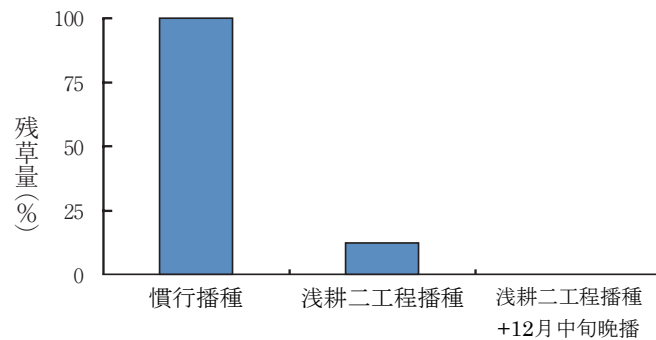


図2 浅耕二工程播種と晩播によるスズメノテッポウの残草低減効果 (平成23年度)

- 注) 1. 残草量は慣行播種を100とした値。3月10日調査。
 2. 除草剤は播種前にグリホサートカリウム塩液剤 (500ml/10a)、播種後にプロスルホカルブ・リニュロン乳剤 (600ml/10a) を散布。



慣行播種



浅耕二工程播種 + 12月中旬晩播

図3 スズメノテッポウの残草 (平成24年3月8日撮影)